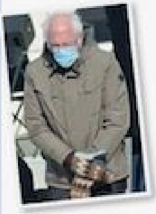
服飾史家・中野香織さんがレクチャー

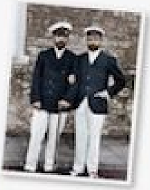
ジャケットって、そもそも何なの？ ルーツと変遷をひもとく

PROFILE

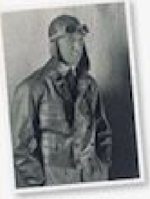
服飾史家として、執筆や講演など、さまざまな分野で活躍。ヨーロッパの宮廷文化から最先端のトレンドまで幅広く精通する。



大統領就任式でのバーニー・サンダース上院議員。機能的なナイロンジャケットに、不要になったセーターで編んだ手袋という飾らない装いが、かえって話題を集めることに。



ロシア皇帝ニコライ2世（左）とイギリスのジョージ5世を収めた20世紀初頭の写真。ともに海軍で活躍し、紺ブレの原型となるようなジャケットを羽織っています。



こちらも20世紀初頭と思われる、バイク乗りを映したもの。ジッパーが付くのはもう少し後のことになるが、ダブルの合わせは今と変わらず。

ジャケットって何ですか？

ジャケットとは、上着の総称です。

これで話を終わりにしようと思えば終了できるほど、ジャケットはあまりにも身近にどこにでもあり、わざわざ解説するほどがないほど存在しているものでもあります。

であるがゆえに、着用される場とタイミングによっては、ジャケットが想定外の破壊力を発揮することがあります。第46代アメリカ合衆国大統領の就任式の記憶もまだ新しいかと思いますが、あの日、もっとも人々を魅了したのは、誰だったでしょうか？ ラルフ ローレンで決めた新大統領、ジョー・バイデンでもなく、史上初のセカンド・ジェントルマンとして副大統領を支えるダグ・エムホフでもありません。高価なブランドネームを掲げたフォーマルな装いの政治家や著名人が続々登場するなか、いちばん人気をさらったのは、バートンの防寒ジャケットを着たバーニー・サンダース上院議員でした。手にはある教師が彼にプレゼントしたエコ素材のミトン。この日のサンダースのコラージュ画像はインターネットにあふれ返り、ついに本人が自身の写真をプリントしたスウェットシャツを販売、売り上げをチャリティに回すという行動に出たほどです。

高級ブランドのテイラードコートすべてをかすませてしまった手垢付きのモスグリーンの防寒ジャケットは、かくしてアメリカのファッション史に刻まれることになりました。

というわけで、改めて考えてみましょう。ジャケットとは何ですか？

ジャケット（Jacket）とは、まあ、上衣の総称であることには変わりないのですが、起源は14世紀にさかのぼります。諸説ありますが、私がいちばん納得しているのは、jackという人名が起源であるという説。「太郎」みたいにどこにでもいた農夫の名前です。ジャックさんが作業時に羽織っていた丈が短めのコート、これがジャケットの起源となったというわけです。その後、スポーツ用、軍事用、女性用など無限に枝分かれをして発展を遂げ、19世紀の終わりごろからは、本のカバーもジャケット。20世紀にはレコードのカバーもジャケットと呼ばれていきます。

なんでもありのジャケットではありますが、フォーマルに対するいくばくかのカジュアル感、どこにでもいる「太郎さん」感が常に前提にあるのが特徴です。ファッションアイテムとして見た場合、起源はざっくりと5種類に分けられそうです。

まずは、フォーマル。そもそもイギリスではタキシードをディナージャケットと呼んでいますが、そこにはテイルコート（燕尾服）よりも寛いだ服、というニュアンスがあります。ベルベットのスモーキングジャケットもここに含まれましょうか。

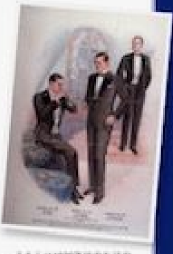
その2、スポーツ。狩猟用のノーフォークジャケットやシューティングジャケット、あるいはサファリジャケット。モーターサイクル由来のライダース、ゴルフ由来のドリズラー、トラックスポーツ系のトラックジャケットもここに含めてよいでしょう。

その3として、ミリタリー。M65やらM1941やらマニア心をくすぐる名前もついていたりします。パイロットのボマージャケットもここに含まれます。

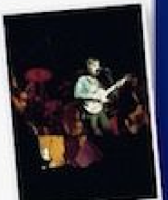
その4として、作業着、および極地の調査探検用。建設現場でよく着られるドカジャンや、探検隊が着るダウンのサバイバルジャケットなど。

その5として、ライフスタイルの表徴。デニムジャケットは1950年代の反体制カルチャーの象徴でした。ヤンキー好みのスカジャンもここに入れてよいでしょうか。

いずれの場合にせよ、本来の文脈を離れて街着として着られた場合、ジャケットは、着る人の生活背景をそこはかとなく映し出してしまうようなところがあります。「太郎さん感」の魅力は狙って演出できるものではなく、着る人がそれに無自覚であるときに周囲が勝手に読み取ってしまうものである、という教訓もサンダースのジャケットから再確認したいところです。（文・中野香織）



こちらは1900年代の礼装の例。夜の正礼装であるテイルコートに対して、くつろいだ準礼装としてディナージャケット（タキシード）が生まれました（中と右の人物が着用しているもの）。



胸に2つポケットがついた野戦服を着たジョン・レノン。払い下げのアイテムにワッペンなどを付けて着こなし、ファッションとして根づくきっかけを作りました。

Photo : Getty Images